

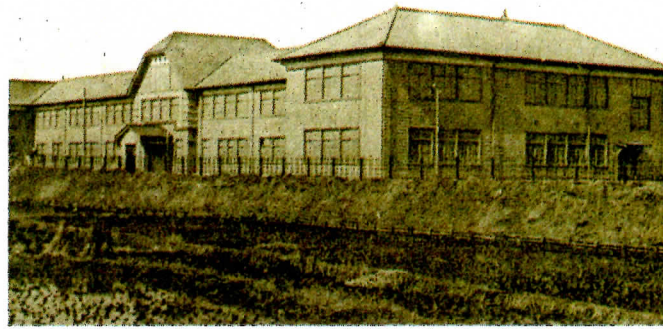
「安房高女」の役割語る

安房歴史文化研究会 26日に館山で公開講座

安房歴史文化研究会の今年度第5回の公開講座(通算57回)が、26日午後2時から、館山市北条の市コミュニティセンター2階集団指導室で開催される。NPO法人安房文化遺産フォーラムの愛沢伸雄代表が「安房高等女学校にみる地域教育」をテーマに語る。資料代として200円。

愛沢代表によると、旧安房南高校舎は関東大震災後に再建された木造校舎。県有形文化財として地域の重要な文化遺産だが、現存している学校資

料は千葉真教育史に位置し、教員養成学校として大きな役割を果たした。大正期、安房地域に多数の小学校教員を送り出した意義は大きいという。



1930年に新築なった安房高女校舎(愛沢代表提供)

背景にある学校の教育姿勢や安房中学とのスポーツ交流、保護者の関わりなどを紹介する予定。大正デモクラシー期における自由教育では、安房郡小学校54校の取り組みは県下トップとされ、北条小など15校が最も優れていたといわれる。安房高女の教育実習校は北条小であり、安房高女出身の小学校教員はどれくらいかを探ってみる内容。

問い合わせは、事務局の石崎和夫さん(047-0-23-6677)へ。